

あなたの身体に、こんな腫れ物ありませんか？

知らず知らずのうちに身体のいたるところにできる腫れ物。気になっている人も多いのでは？ パリッシュ編集部にもそんな悩みをもつスタツプが数人います。そこで、『整形外科 はせべ医院』院長・長谷部先生に相談してみました。



長谷部 了院長
プロフィール

昭和61年、群馬大学医学部を卒業し群大整形外科教室に入局。手および肘の手術を多数経験する。平成10年「はせべ医院」を開院。日本手の外科学会会員・日本リウマチ財団登録医

「右手人差し指の爪のまわりが腫れ、赤くなっているのですが、どうしたのでしょうか？」

長谷部 針を刺して、ゼリー状の液体が抜ければ**ガングリオン**(図1)と呼ばれる**良性の腫れ物**が考えられます。女性に多い疾病で、**手首周辺や手のひらの指の付け根**などによく見られます。これは、関節を包む袋や腱を包む袋より発生していると考えられており、手を使いすぎると大きくなることもあります。また、液体が多く溜まると骨のように硬くなり、不快感があります。多くの場合、

強い痛みはないのですが、神経が圧迫されると痛みが出ることもあります。治療は、針を刺して液体を抜き、腫れ物が小さくなればとりにあらずはよいのですが、繰り返したまる場合は、袋ごと取り除く手術を行うケースもあります。医師は、ガングリオン周囲に大切な神経や動脈がないか確認し、それらを傷つけないように慎重に治療を進めます。

「私の父の背中には直径2センチ程の腫瘍があり、時々、白く臭いのする柔らかい物が排出されることがあるのですが大丈夫ですか？」

長谷部 そのような場合、いちばん考えられるのが、**粉瘤**、**アテローム**(図2)と呼ばれる**良性の腫れ物**です。首の後ろや背中などに多く認められます。これは表皮や毛包の一部の細胞が真皮内へ埋入することにより、皮下に**角質物質**(つまり垢)がたまり、感染をおこします。症状は赤く腫れあがったり痛くなったりします。臭いがあるのが不快な方や、腫れや痛みが気になる方は**局所麻酔による手術**をおすすめします。

「腫れ物にはどのような注意をしたらよいでしょうか？」

長谷部 腫れ物にはいろいろな種類がありますが、**痛みを伴ったり、急に大きくなってきた場合は要注意**です。いずれにしろ、腫れ物は早く、身近な医師の診療を受けることをおすすめします。心配も取り越し苦労であったり、早く発見できれば大事に至らなくて済みますからね。

たとえば、**ほくろ**(図3)は、極めてまれに悪性腫瘍である事もあるようです。ほくろの形が左右非対称であったり、色調がまだら模様であったり、周囲の皮膚との境界がはっきりしない場合は要注意です。心配であれば皮膚科の先生に診て頂きましょう。

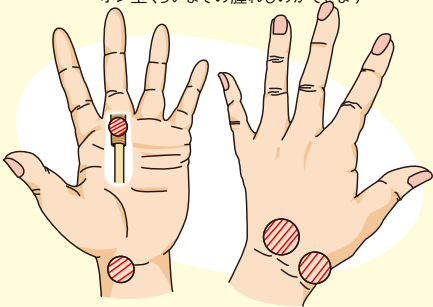
足の裏のほくろなどは、予防的な意味で局所麻酔により切除することもあります。

「いずれにせよ、いつまでも悩んでいないで早く医師の診察を受けることが大切です。」

ガングリオン

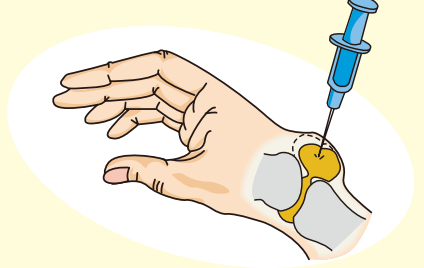
図1

症状 手首の甲など、関節の周辺に米粒大からピンポン玉くらいまでの腫れものができます



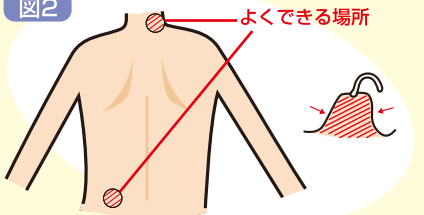
ガングリオンのできやすいところ

治療 大きくなるもの、痛みが強いもの、神経を圧迫する症状などは、早期治療がおすすめです



ふんりゅう 粉瘤 (アテローム)

図2



足の裏のほくろには要注意



図3

取材協力



日曜日も診療しています！
整形外科 はせべ医院

●診療時間
9:00~12:00 / 15:00~18:00

●休診日
木曜午後、金曜、祝日

高崎市井野町983(駐車場50台完備)

TEL.027(361)0177

